


6年2月7日

派遣成果報告書

有田市議会議長 様

議員氏名 武田豊治 

有田市議会の議員派遣に関する要綱第5条の規定により、下記のとおり報告します。

記

研修名	議会を身近に知る広報議会広報クリニック
研修期間	6年1月31日(水) ~ 6年1月31日
研修場所	1 全国市町村国際文化研修所（大津） 2 市町村職員中央研修所（千葉） 3 地方議員研究会（ ） ④ その他（京都）（ ）
研修の成果	別紙のとおり

※ 「研修の成果」は研修内容や所感などを具体的に別葉に作成して添付してください。

※ 研修先から交付される「終了証」等を添付してください。

議員派遣等成果報告書

研修内容 「議会を身近にする広報・議会広報クリニック」

研修日時 令和6年1月31日

研修場所 京都 JA京都ビル

武田 豊治

議会を身近にする広報

まず広報を読んで頂くには、議会を身近に感じて頂く。皆さんが思っているよりも市民の多くは議場が何処に在るのか、議場とはどんな所でどんな事をしているのかを知っている方が案外少ないという結果が出ており、議会を身近にする為に（資料1・2・2-1）広報活動の強化、リアルな接点の拡大・議場の解放・市民との接点を作る場所として議場を使用する、など市民との情報共有・対話の場として使用する市町村が増えている。又、議会スクール（議会アカデミー）を開催し幼児期から教育（資料3から6）で受講生から立候補した3人全員が当選した町があり議会に関心を持った若者が増え議員のなり手不足解消を目指し定数11人に14人が立候補するなど幼児期から若者に、そして全年齢層に関心を持ってもらえる様にデザイン（見たく、知りたく、参加したくなる）した広報にしていくべきである。

手に取りたくなる表紙・気になる特集。

住人とのコラボ（資料7）中学・高校生に表紙をCG・絵・写真などを提供して
頂き繋がりをもつ・出て貰う。結果友達にも広げる・SNSで広げる

表紙で私にも関係がありそう？と思って頂ける様に。

雑誌などもそうですが、表紙を一目見てまず興味・関心・中面を読むきっかけをもって手に取ってもらう。そして少しの文章で中を見たくなる様なデザイン・文章構成に思い切って表紙から内容の大幅なリニューアルをする時期かと感じました。

有田市の市議会だよりの改善点

- 1, 紙媒体で求められる見開き単位で情報がまとめられている一方、文字情報がメインになっており広報に傾きすぎで広聴（住民の行政に対する意見・要望などを聴く）を取り入れて地域に寄り添う広報・広聴を伝える。（文字のみで飽きられやすい）
- 2, 読者の目を引くビジュアル（視覚に訴える）な紙面づくりを。
- 3, （見せちゃってよ、子供達にも）にメッセージ性があると評価されましたので、

親子で読む・見る広報誌のモデルを目指す様に進める。

- 4, 定例会以外の広聴コンテンツ等を充実させる。
- 5, 文字のみで飽きやすい。記事に関連した写真やイラストを盛り込む。
- 6, 若者や素人がすっと入りやすい興味を引く内容に。全部乗せすぎでクローズアップを心掛け議会だよりを見た事がない人が入り易い、そして議員が身近に居る様な内容を。
- 7, 市民参加があると広報誌を楽しみにする人が増えます。
- 8, その他、細かな点 名前にルピを付ける・ページを16Pに増やす(他市は20Pから28Pが多い) 発言の趣旨がわかる文に(一般質問) 写真がパスポートっぽい(左斜め・正面・右斜め・議場で発言している臨場感のある写真を用意しておく) スマホでも視聴出来る記事は二次元コードを付け、ラインの使用度が多い為ラインの活用も検討する。子育て世代・若者・シニアなどの多世代が登場する連載等も検討していく。

多世代に見て頂く為には、思い切った変更が必要であり市民の方に寄り添って身近に感じて頂く、又議員さんは固い・近寄りがたい存在で無いというイメージ作りが必要であると思います。

これからは市議会だよりを只発行しているではなく次回を楽しみにして頂く事も視野にいれ作成していこうとおもわれます。